9月1日 防災の日に救命講習

災害への備えと防災意識を高める

錦江町消防団では、毎年防災の日に合わせて訓練を実施しています。本年度は8月30日に南部消防署の指導の下、16名の団員が救命講習を受講しました。火災現場、捜索等で険しい場所に行くことの多い団員にとって、心肺蘇生法や怪我の応急処置など、消防団の活動に活かせる知識と技術を学ぶ有意義な訓練となりました。



錦江町消防団は団員を募集中。
インスタグラムで情報を発信しています→

@KINKO_FIREBRIGADE

海を越えて　作品と町の魅力を発信

ニューヨークで展覧会を開催

錦江町在住の画家で、MIRAIサポート協同組合に勤務する越山由唯さんが、アメリカのニューヨークで展覧会を開催しました。展覧会は5日間で、のべ約200人が来場。越山さんは「1年間かけて準備をし、無事に開催することができた。錦江町の方々にもご支援いただき、大変感謝している」と語りました。会場では錦江町のお茶が振る舞われ、来場者の皆さんに喜ばれました。

「ニューヨークのメディアにも取り上げられ、大きな反響があった。今後も描き続けていきたい」と語る越山さん。



将来の夢や職業につながる体験

お仕事バイキング 開催

9月18日、町内3小学校の5・6年生を対象に将来の夢や仕事について考えるキャリア教育として「お仕事バイキング」が行われました。アナウンサーや海洋学者、画家など18種類の講師から興味のある職種を選択しオンラインで交流。仕事内容や考え方など講師の話に、熱心に耳を傾けていました。

大根占小5年の徳永碧那（あゆな）さんは「絵を描くのが好きなので、画家の方の話が聞けるのを楽しみにしていた」と笑顔で話しました。



アントレプレナーシップ教育事業

錦江中３年生　イノチャレ 2026

課題の発見と同時に地域資源の活用で地元愛を醸成する「イノチャレ2026」を開催し、錦江中学校３年生37名が参加しました。生徒たちはグループに分かれ、町内４事業者へインタビューを実施。その後、２日間かけて課題解決に向けたアイディアを出し合い、９月25日に成果発表会を行いました。生徒たちにとって町の未来を考える貴重な機会となりました。



アントレプレナーシップ教育とは、社会課題を自ら発見し、解決に向けて挑戦する知識・能力・態度を育む教育のこと。

「自分にもできそうなこと」として、「安全に車いすを使う方法を調べたい」や「地域の周りの人に声をかけてみたい」などの意見が出ました。



「できることから、はじめよう。」

中学生と考える 地域で支え合う未来

錦江中学校１年生を対象に、介護福祉課の職員が「介護・福祉に係るキャリア教育」の特別授業を行いました。介護や福祉は専門職だけが担うものではなく、住民一人ひとりが地域の主役として、人と人とのつながりを大切にしながら、地域全体で支え合っていくことが大切であるということを学んだ生徒たち。自分たちの暮らしに関わる身近なテーマとして学びを深めました。

自分で見つけたテーマを深く探究

田代中 TJK　半年間の学びを発表

９月18日、田代中学校でTJK（田代自己課題追及）発表会が行われました。本発表会は、全校生徒が一人ずつ考えたテーマに沿って、半年間の研究や制作等の成果を発表するもの。田代中３年重久ひなのさんは「錦江町と他の地域との関わりについて」をテーマに、与論町や出水市とのつながりの経緯や歴史等について発表しました。



重久ひなのさんは「与論町とのつながりは、これからの世代にもしっかりと受け継いでいくべき大切な歴史だと思う」と話しました。

ピアノ松本圭使さん、ヴォーカル和田明さんによる、ジャズの魅力あふれるステージに会場の子どもたちも聴き入っていました。



軽快なリズムに心弾ませ

ジャズの世界へようこそ！

９月８日、白玉醸造㈱が主催するジャズコンサート「ジャズの世界へようこそ、ふしぎな音のだいぼうけん」が町文化センターで開催されました。町内の小中学生や未就学児のほか、一般の観客も訪れ、会場は多くの人でにぎわいました。普段なかなか聴く機会のないジャズの魅力に触れ、会場全体が音楽の楽しさを共有するひとときとなりました。

来年２月の完成予定
子育て支援住宅　上棟式

旧土木事務所跡地に建設中の子育て支援住宅の上棟式が９月15日に行われ、工事の安全を祈願しました。式では餅まきも行われ、地域の子どもたちも参加。餅を受け取ろうと笑顔で手を伸ばすなど、会場は子どもたちの歓声に包まれました。住宅は全10棟で、来年２月の完成を予定しています。今後も安全に配慮しながら、完成に向けて工事が進められます。



入居者の募集については、今後、広報紙や町ホームページ等でお知らせいたします。

秋の交通事故防止運動　街頭キャンペーン
安全運転を呼びかけ

9月25日、秋の交通事故防止運動の一環として、錦江警察署、錦江町交通安全協会、錦江地区安全運転管理協議会の約15名が街頭キャンペーンを行いました。鹿屋方面に向かう車にチラシと飲み物を手渡し、安全運転への協力を呼びかけました。錦江町交通安全協会会長の安田憲次さんは「交通事故は加害者も被害者も大変な思いをする。日々気を付けてほしい」と話しました。

約30分間、鳥浜の国道で実施。ドライバーに「安全運転お願いします」と呼びかけながら、チラシと飲み物を配布しました。



県畜産共進会へ３頭が出場決定
肝属秋季畜産共進会　西元裕樹さんがグランドチャンピオン賞受賞

肝属中央家畜市場で第71回肝属秋季畜産共進会が開催され、本町から９頭が出品されました。西元裕樹さんの「なかはら号」が出品牛62頭の中から見事グランドチャンピオン賞に輝きました。また、若雌２区で３席となった西元さんの「はるかぜ号」と、種牛性賞並びに前躯賞を受賞した「つとむの515号」も県畜産共進会への出場が決定。県畜産共進会は10月３日に姶良中央家畜市場で開催されます。

◉県畜産共進会への出品牛　＊敬称略
若雌２区▶なかはら / 西元裕樹
若雌２区▶はるかぜ / 西元裕樹
繁殖雌牛群区▶つとむの 515/ 西元裕樹



錦江町の牛がグランドチャンピオン賞を受賞したのは 11 年ぶり。西元さんは「地域が一体となって改良に取り組んだ成果。牛の体調管理を徹底して、県共進会でも上位を目指して頑張りたい」と語りました。



仕事、日本語、友達と
KINKOで輝こう！
Shine in Kinko

ミャンマー
ワー・ワー・ミョ さん
特定技能1号（23）

Vol.03

2024年に来日し、錦江町の肝属郡医師会立病院で介護の仕事をしているワーワーミョさんに、日本での生活や仕事についてお話を伺いました。

――どんな仕事をしていますか？

医師会立病院で介護の仕事をしています。主に、患者様の食事や入浴、移動などのお手伝いをしています。

――利用者さんとの思い出や印象に残っているエピソード？

あるとき、患者様が「吐きそうなので、看護師さんを呼んでください」と言われました。私が外国人なので、日本語が分からないと思われたのか、ガーグルベースン（うがい受け）を持って、吐く動作をしながら伝えてくださいました。分かりやすく伝えようとしてくださったことが嬉しくて、印象に残っています。



お茶や食事を運んで配る

――大変だと感じたことはなんですか？

日本に来たばかりの頃は、日本語でコミュニケーションを取ることが大変でした。分からない言葉もたくさんありました。特に、鹿児島弁で話しかけられたときは、何を言っているのか分からないこともありました。また、日本語を話すときに間違えてしまうのではないかと不安でした。でも、今は患者様や職員の方々と話すことが、とても楽しいです。



吸痰瓶交換やおむつ交換の準備等

――趣味や休日の過ごし方は？

休みの日は、友だちと一緒にご飯を食べに行ったり、いろいろな場所に遊びに行ったりしています。きれいな景色を見たり、写真を撮ったりするのが好きです。今まで霧島、日南、鹿児島市内、東京へ行きました。

――これからの目標を教えてください！

これからも介護の仕事を頑張りたいです。仕事にも日本の生活にももっと慣れて、毎日楽しく過ごしたいです。そして、もっと日本語の勉強も頑張って、介護の知識や技術も身につけ、患者様に安心してもらえる介護職員になりたいです。



これから日本に来る実習生へのメッセージ

日本に来る前は不安もあると思います。私も最初は不安でしたが、周りの人や職場の人に相談しながら少しずつ慣れました。日本でたくさんの経験をして、楽しい思い出を作ってくださいね。皆さん、頑張ってください！

Mar Nar



ちょこっとミャンマー紹介

ミャンマーには「名字」がなく、家族で同じ姓を受け継ぐ習慣もありません。また、生まれた曜日によって名前の頭文字や守護動物が決まる伝統もあります。あなたの守護動物も探してみませんか？



国際交流員　ミイッツ